

事務事業評価表 平成24年度

政策 明日につながる産業の振興
 施策 就業環境の整備
 基本事業 就業機会の確保

事業名 **緊急雇用創出事業 (文化財整理事業)**

[0909]

部名	教育部	事業開始年度	平成21年度	実施計画事業認定	非対象
課名	郷土資料館	事業終了年度	平成23年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土資料館収蔵資料 市民
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土資料館収蔵資料を適正に保管し、利用可能な状態にする。 この事業により、市内の雇用を創出する。
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土資料館収蔵資料を整理し、資料の適正な保管を図るとともに、市民や研究者への閲覧等の活用に対応できるようにする。 本事業の遂行にあたり、臨時的任用職員を募集することにより、市民に雇用の機会を増やす。

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	郷土資料館収蔵点数	点	18,000	18,000	18,000	0
対象指標2	市民	人	122,568	122,138	122,138	0
活動指標1	整理資料点数	点	4,373	5,850	6,280	0
活動指標2	臨時的任用職員応募者数	人	50	41	39	0
成果指標1	収蔵資料点数における整理済点数の割合 (%)	%	24	33	35	0
成果指標2	雇用者数	人	4	4	4	0
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	2,755	2,747	3,276	0
正職員人件費 (B)		千円	4,149	4,030	4,816	0
総事業費 (A) + (B)		千円	6,904	6,777	8,092	0

費用内訳	
23年度	賃金 2,670千円、需用費 254千円、使用料及び賃借料 352千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	市民の財産である郷土資料館収蔵資料の適正な保管及び活用するための整理 緊急雇用創出推進事業(雇用交付金)の活用	事業を取り巻く環境変化	緊急雇用創出推進事業(雇用交付金)の実施期間は平成21年度～平成23年度
--------	--	-------------	--------------------------------------

23年度の実績による事業課の評価(7月時点)

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか?市の役割や守備範囲にあった目的ですか?

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由
・
根拠は?

郷土資料館に収蔵されている民具や発掘出土品は、江別の歴史を伝える重要な資料であり、これらを活用するために整理することは市の大切な役割である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか?

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由
・
根拠は?

収蔵資料の整理作業を通して、雇用機会を増やしたことから、基本事業に貢献している。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか?計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか?

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由
・
根拠は?

民具等の整理や発掘出土品(土器)の修復を行ったことにより、展示活用しやすい状態になった。
予定どおりの人数を雇用できた。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか?その理由は何ですか?

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由
・
根拠は?

収蔵資料を収納するスペースが十分ではないため、資料整理の効率をこれ以上向上させるのは困難。
緊急雇用創出事業での雇用は23年度で終了した。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか?(受益者負担含む)

ある

ない

理由
・
根拠は?

収蔵資料の扱いには慎重に行う必要があるため、手作業が必須となる。膨大な資料を整理するには人手がかかり、人件費以外の経費は最小限にとどめていることから、コスト削減は難しい。